

プレーパーク

～自分の発想で遊びを考える～

けろっこぱーく

日 時：21日（土）午前10時～午後3時
 対 象：どなたでもOK！
 ※未就学児は保護者と一緒に参加
 会 場：富士見公園
 主 催：外遊びを考える会「どろんこの王様」

日 時：10日（火）午前10時～午後1時
 対 象：未就園児と保護者
 協 力：蕨市立西公民館



「冒険遊び場」と知り合って・・・

外遊びを考える会「どろんこの王様」
 田上 朋子

「子どもたちの体験格差」

先日、「親の学歴・所得の差が「子どもの体験格差」に」という記事(ダイヤモンド・オンライン)を読みました。様々な調査の結果、所得や学歴が高い親の方が、子どもの「勉強」のみならず、「体験」にも多くの時間を割いている事がわかったというものです。

確かに、蕨から海や山は遠く交通費もかかるし、特別な道具が必要なマリンスポーツやウィンタースポーツは出費が多いもの。そして、そのような場所に行くには時間と体力も必要です。親が仕事に忙殺され疲れていると、それはなかなか難しいものです。

しかし、この記事内でも触れられていましたが、子どもたちの体験格差の問題は、家庭内だけで解決しなければならない事でしょうか。確かに、親と一緒に体験をする事はとても価値があるもののようです。海や山のような特別な体験でなくても、一緒に会話しながら食事をする事も、質の高い体験だと記事内で書かれていました。ただ、地域みんなで子どもたちを育てていくという視点で、親だけでは体験させられない事も、子どもたちが体験出来る環境を作っていく事が、体験格差を解消する事に繋がるのではないのでしょうか。

遠出をしなくても、お金をかけなくても、身近な所での「遊び」が豊かな体験になるはず。水遊びにどろんこ遊び、虫取り、木登り、工作、秘密基地作り、冒険…先日娘は、プレーパークで大きいお姉さんたちに教えてもらいながらベッコウ飴を作り、目を輝かせて舐めていました。一昔前までは当たり前だったかもしれない日常の遊びは、子どもたちの心の成長に必要な「体験」そのものだと思います。子どもたちが過ごすのは家や学校だけではありません。それ以外の場所での遊びの中にも、宝となる体験がたくさんあるはず。どの子どもたちも、様々な体験が出来る社会を作っていきませんか。

ねえねえきいて

さつき保育園
 0歳児 ひよこ組 森松 真央

「きもちいいね」

いつの間にか、セミの声がコオロギの声に変わり、季節はどんどん秋に近づいてきました。子どもたちがひよこ組となり、約半年が経とうとしています。

7・8月には水遊びがありました。いつもの外遊びと違い、着替えをしてからお外へ出ると、不思議そうな顔をする子どもたち。用意してあるタライをそーとのぞきこみ、中に手を入れ触ってみると水が入っていました。水と分かった途端、ダイナミックに水を叩きパシャパシャという音を出してみたり、シャベルで水をすくって自分にかけてたり... 保育者がジョウロのシャワーに誘うと両手を広げ全身で水を浴びる姿もあり、びっくり！一人ひとりが水の気持ちよさ、面白さを感じながら遊んでいるようでした。水遊びから上がると“さっぱりした〜”と涼しげなお顔を見せてくれるのがとても可愛らしく、思わず笑ってしまいます。



今月から新しいお友達も加わりました。まだ保護者の方との別れが寂しく泣いてしまう場面もありますが、泣いている子に近づいて顔を覗きこんだり、“こうやってやるんだよ”とおもちゃで遊んで見せたりとお友達を気にかける子どもたちの優しい姿に、保育者の心もあたたかくなります。より一層にぎやかになり、これからの6人での生活がますます楽しみです！



西公民館行政サービスのご案内

受付時間：平日 午前8時30分～午後5時15分

内 容	料 金
粗大ゴミ収集券	1枚 550円
改訂版「わらび郷土かるた」	1冊 500円
第二中学校夜間照明使用コイン	1枚 1,030円